

また、利用者の皆さんから病院に対する様々な意見も寄せられています。ご意見箱の設置や患者満足度アンケートも実施しています。これらの中で多くの方が不満と感じている項目として、診察や会計までの待ち時間が長い、プライバシーに配慮されていない、駐車場が狭いなどが挙げられました。また、病院スタッフの言葉遣いや接遇に不満を訴える意見もあります。

山積した課題の解決に向け、市民に信頼され、良質な医療を継続的に提供し続けるために、新築による施設整備が必要なる状況となりました。



玄関から見た院内のイメージ

【新病院事業概要】

構造 鉄筋コンクリート造地上4階建（一部鉄骨）
 延床面積 16,034.17㎡ 建築面積 9,256.49㎡
 新病院標榜科目（14科目）
 消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・外科・脳神経外科・整形外科・耳鼻咽喉科・産婦人科・小児科・精神科・眼科・泌尿器科・皮膚科・歯科
 病床数 一般病床170床 精神病床36床

※急性期医療…「病気の進行を止める」「病気の回復が見込める目処をつける」までの間提供する医療

新病院は、市の基幹病院として市民の生命・健康を守るため、急性期医療※を中心とした一般病床と精神病床で構成されます。救急医療や地域に不足している小児科・産婦人科・成人病対策医療を効率的に提供できるよう整備します。

平成28年度までの長期事業で、医師・看護師ほか、病院スタッフが「丸」となって市民の皆さんに信頼される病院になります。

信頼される良質な医療を提供し続けるために

角館総合病院

新病院建設事業概要

現在の施設は築40年を超え、老朽化が進んでいます。病院そのものの医療機能の低下が心配され、新しい医療や快適な空間の提供ができない状況にあります。市民に信頼される良質な医療を継続的に提供し続けるため、また、地域的な人口減少・年齢構成の変化に対し、適正規模への見直しも含め、平成29年春の竣工を目指し、仙北市立角館総合病院の整備を図ります。



老朽化した現病院では中核病院の役割を果たすことが困難

角館総合病院は、救急患者の受け入れや年間約8万人の入院患者と14万5千人の外来患者が利用している仙北市の基幹的医療機関です。また、災害拠点病院に指定され、DMAT（災害派遣医療チーム）も結成されています。

しかし、建築後40〜50年たつて老朽化は進み、新たな医療機器を導入するにも手狭になっています。経営的にも、人口減少などにより患者数は徐々に減り、病床利用率も低下しています。このため、年間数百万円から数千円万円の純損失を計上する状態が続いています。

病院経営は黒字維持を努力

今後の病院経営等については、平成25年度末で15億700万円の累積欠損金があります。この多くは減価償却費であり、現金支出を伴わない費用となります。市民の皆さんが危惧される負債とは全く異なるものです。減価償却費を除いた収支については、平成29年の病院建設

予定年度以降も黒字を維持し、内部留保も確保できる試算となっておりますが、今後さらに収益の向上策や経常経費の見直し、歳出の抑制に努力していきます。

新病院はわかりやすく快適に！

さて、新病院はどのような計画か、一部をご紹介します。新しい病院に向かうと、

駐車場中央入口から玄関前おむすびの大庇まで直線で結ばれ、わかりやすい動線おむすびで入口に入ることができます。

新病院の入口のロビー前から外来、リハビリゾーンまで、広い通路（ホスピタルストリート）を採用し、認識しやすく、込み合う時間帯でも目的の診察、診療室等へ向かう事が可能です。外来患者さんの利用する診療部門を全て1階に配置し、上下階の移動をすることなく、診察・検査・会計を済ませることができ、移動負担が軽減できます。待合は南側からの採光も確保しています。

また、新病院に導入が予定される院内情報システムが本格稼働した場合、診察時・会計時の待ち時間が緩和されます。

新病院の基本理念

新病院は、市の基幹病院として市民の生命・健康を守るため、急性期医療※を中心とした一般病床と精神病床で構成されます。救急医療や地域に不足している小児科・産婦人科・成人病対策医療を効率的に提供できるよう整備します。

平成28年度までの長期事業で、医師・看護師ほか、病院スタッフが「丸」となって市民の皆さんに信頼される病院になります。



市立角館総合病院 院長 西野 克寛



角館総合病院の新築移転後の役割と近未来

懸案の新築移転が実現間近となり、改めて皆さんの多面的ご支援に感謝申し上げます。

新病院には災害時対応、平時の安全安心な医療提供と質向上が求められ、周辺の病院や診療所との連携、医療スタッフの結集が必須で、平成19年院長就任から診療科目の維持を前提に、以上のことを念頭に3つの自共助の事業に取り組んでいます。1) 基幹型臨床研修病院指定と運用、診療向上のため 2) 大腸がんに関する厚労省班研究事業（工藤進英班長） 3) スーパードクター（脳血管内治療の坂井信幸、松本康史等）の10年間招聘と脳卒中後の機能回復の国際会議の定期開催です。

次第に他大学や医療機関と交流が深まり、現在、消化器3名含む開院以来最多の内科医師7名、内科外科系を両輪とする診療体制が整いつつあります。2) は秋田県大腸がん死亡率を長年の2位から平成26年には9位とし、世界初の自動診断能内蔵型内視鏡での治療が期待されます。3) の血管内治療の権威、坂井信幸部長は10年間仙北市住民を多数救い、当院に県内4人目（県南初）の専門医を育て、残りの重要課題は循環器科の常勤化と認知症対策です。

今後、仙北市では高齢化と人口減少は待ったなしで、足下を見据えた将来展望が必要です。平成26年の国際福祉大学調査では東北で医療、介護とも余裕有に選ばれた秋田周辺医療圏と横手医療圏に隣接する大仙仙北医療圏の中核病院である当院は、県南医療を補完できることを示唆します。今回の病院新築は絶好のチャンスで、仙北市の未来への投資です。以上、開院前夜の当院の現状と方向性の一部をご紹介します。今後とも地域に愛される病院づくりを目指しますので、格別のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

市立角館総合病院 看護部長 菅原 智恵子



私達は、患者さん中心の医療を提供し、皆さんに信頼される病院を目指します

市立角館総合病院理念のもと、看護部は患者さんの検査から治療へと連なる一連の診療援助と、患者さんが過ごされる空間の環境整備を24時間絶え間なく行っております。

移転新築計画について、看護師の立場で議論を重ねる中で看護師としての新病院の輪郭が見えてまいりました。新病院においては、「患者さんに快適な空間を提供すること」そして、「職員一人ひとりがこの病院で仕事ができる事を幸せと思えること」を各部門と連携して取り組んでまいります。

平成25年6月より市民の皆さんからのご助言もあり、患者さん退院時アンケートを実施しております。厳しいご意見もごさいますが、多くの方々から「良く頑張っているね」「応援しています」などのお言葉を頂き、私共スタッフの励みになっております。ご意見や苦情については真摯に対応し接遇の向上に努めてまいります。

何より今が大切と考え地域に根差した看護目標を設定し平成29年新病院の姿とともに、「おもてなし」をキーワードに開催される東京オリンピックに肖って「看護の心=おもてなしの心」ホスピタリティ溢れる看護を実感していただけるよう日々努力してまいります。今後とも皆さんのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

仙北市病院事業管理者 宮川 信



市立角館総合病院の移転新築について

仙北市病院事業の運営につきましては、日頃から格別なるご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。仙北市病院事業は、ご承知のとおり、市立角館総合病院・市立田沢湖病院の2つの病院事業が1つになっており、市内を中心に地域医療を担ってまいりたいと思っております。

角館総合病院は、施設の老朽化から、患者さまの良好な療養環境の提供、高度化する医療技術や患者ニーズの多様化に対応することが喫緊の課題でありました。

現在の老朽化した施設では限界があることから、地域の中核病院および災害拠点病院としての機能整備を充実するため、移転新築することといたしました。

この移転新築整備は、地域の皆さんに一層の安心・安全を提供できる地域医療の充実を図るためのもので、結果として、病院事業全体の健全経営に結びつくものと思っております。

病院事業職員一丸となって安定した地域医療の提供体制を構築し、今後、ますます医療の質を高め、救急医療にも力を注ぎながら「患者さまのための医療」すなわち、良質の医療、効率的に、地域住民の目線にたった医療を提供してまいりたいと思います。

また、今後はそれぞれの病院、診療所が単体ではなく、地域全体の中でそれぞれの専門分野に特化した診療を担う時代になってきていますので、地域の医療機関とのさらなる連携を図ってまいりたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

大曲仙北医師会角館ブロック会

会長代行 鬼川 温氏



市立角館総合病院の新築・移転への期待

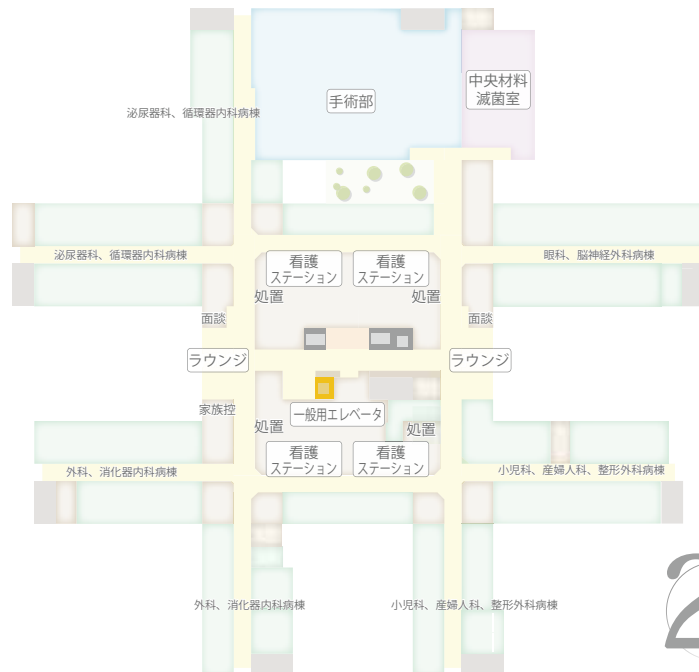
大曲・仙北二次医療圏における中核病院である仙北組合総合病院が、昨年5月に大曲厚生医療センターとして新築・移転したのは記憶に新しいところです。建物・設備のみならず、診療内容もより充実し、医師会としても心強く思っております。

その一方、仙北市は広大な面積を持ち、田沢湖地区・西木地区には大曲厚生医療センターまで片道1時間以上かかる地域が存在します。したがって市民の皆さんへ十分な医療を提供する上で、市立角館総合病院は必要不可欠な存在です。にもかかわらず、建物の老朽化や手狭さは如何ともし難いものがありました。

このたび、新病院建築費の補正予算が市議会で可決され、建築工事が始まる見込みに成りました事は、誠に悦ばしく思いますと共に安堵致しております。

しかしながら昨今の医療情勢は厳しく、新病院が軌道に乗るためには市民の皆さんのご協力が不可欠です。新病院に期待されるのはもちろんですが、皆さんの力で新病院を大きく育てていただく事を切にお願い申し上げます。

医師会と致しましても、病院と開業医との間の病診連携をより緊密に進め、地域医療を守っていく所存です。



静かな環境と効率的な
スタッフ動線を両立



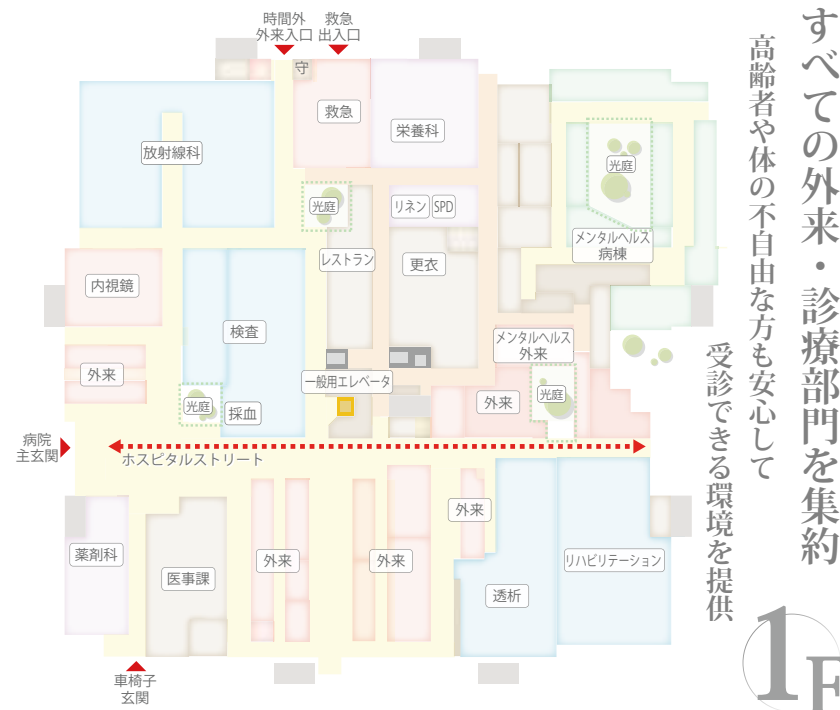
病室内観イメージ

◀ 2階平面図

一般病床の集約と手術部門のみで構成され、静かな環境で療養いただけます。看護ステーションが中央に集約されていることで、緊急時など、他病棟から看護師の応援要請・連携する際に素早い対応が可能となります。また、エレベーターを降りた廊下の先にラウンジを設け、入院患者さんご家族のだんらんができます。



外来受付から待合、主出入口を見た内観イメージ



すべての外来・診療部門を集約
高齢者や体の不自由な方も安心して
受診できる環境を提供

1階平面図▶

正面入口から総合受付前の広さをそのままに外来診療、透析、リハビリテーションへと続く広い通路（ホスピタルストリート）を設け、各診療部門前には受付を配置しています。検査や放射線撮影も含めて、外来の受診から支払まで全て1階のフロアで済ませることが可能です。（1階・2階とも完全なバリアフリー建物です）

- 平成22年3月 市立角館総合病院新病院基本構想を元に事業化を開始。
- 平成23年5月 市立角館総合病院建設用地選定検討委員会を設置し、建設用地の検討を開始。
- 平成23年9月 右記建設用地選定検討委員会より建設用地を答申。（現建設地・南高跡地）
- ※同時に、秋田県より高等学校再編についての計画発表が有り現在の建設用地に決定。
- 平成24年7月 仙北市病院事業構想・市立角館総合病院基本計画策定委員会設置要綱を制定、新病院建設についての基本設計プロポーザル手続きと評価基準等の明確化を行う。
- 平成24年12月 新病院基本設計プロポーザルにより(株)佐藤総合計画東北事務所を最適任者として決定。翌年1月(株)佐藤総合計画東北事務所と基本設計業務委託契約を締結。
- 平成25年9月 市立角館総合病院基本設計業務委託完了。新病院の基本配置が決定。
- 平成25年10月 仙北市議会特別委員会にて新病院基本設計が了承。同月、実施設計業務委託を(株)佐藤総合計画東北事務所と締結。
- 平成26年5月 新病院実施設計が完了。その後、同年7月に建築確認申請許可を取得。入札会予定も参加各社辞退により中止。その後、現在の建設市況を踏まえ、再度建築工事を算定。
- 仙北市議会に増額した建築工費の補正案を提示、市議会本会議での議案可決により、新病院建築工事についての入札を12月22日付けで公告。入札会を開催。2社が応札し、(株)安藤・間東北支店が落札候補者となる。
- 平成26年9月 平成26年9月
- 平成26年12月 平成26年12月
- 平成27年1月 平成27年1月